

NTT DATA「佐渡島自然共生ラボ」ナレーション原稿

(NA1)

「日本の多くの地方が抱える課題

——人口減少、産業の縮小、そして自然資源の劣化や未活用。

その“課題”を“共生”という視点で捉え直し、自然と人が寄り添いながら、新たな価値を生み出そうとしている島があります。

それが、新潟県の佐渡島です。

(NA2)

佐渡島でも、多くの課題に直面していました。

島を支え続けてきた海藻文化の衰退、放置竹林の被害…

自然と共に生きてきた島が、岐路に立たされていたのです。

(Interview1)

高度成長期には、上りのエスカレーターをみんなで駆け上がってきて、産業的にも盛り上がっている時代から、下りエスカレーターをみんながむしゃらに登ってて、でも登ってないよという状態。これが今の地方の状態だという風に思っていて、これをどうしたら解決できるのかというところがまず一つのきっかけだった風に思うけど。

(Interview2)

地域が疲弊しているというのが、私たちが想像している以上に下りエスカレーターだっているところで、もっと仕組みで何かできないか？

(Interview3)

自然と共に生きるためにはどういうふうに暮らしを変えていかないといけないのか、社会の仕組みを変えていかないといけないのかっていうところにチャレンジしたいなっていう。

(NA3)

そこで、産・学・官、そして民が手を取り合い、島をまるごとフィールドにしたプロジェクトを立ち上げました。

『佐渡島自然共生ラボ』です——。

地域課題を学ぶ・構想する・実践する自然共生探求サイクルを核に、“自然との共生”をテーマに、地域が有する自然、社会、人的資源を再発見し、“資本”へ磨き上げ、経済や生活価値へと転換。産業循環を生み出す仕組みを創り出しています。

(Interview4)

行政ができないところもあるし、研究機関ができないところを、NTT データがそこに仲介することによって、ビジネスも考えられますし、デジタルも考えられるしという役割を担うことで、8の字を円滑に回すためのドライバー機能になったかなと思う。

(Interview5)

ワークショップという形で佐渡島の将来こうありたい、みたいな姿を描いていって。それに紐づくプロジェクトを自発的にみんながやりたいものやっついこう、というような、まずはありたい姿から入っていくというのは、すごく特長的なアプローチができたかなって。

(NA4)

今、島では、10を超えるチャレンジが同時に動いています。海藻を再び“食・肥料・建材”へと活かす。

竹林を舗装材へと変える。など、すべてが“自然と共に、稼ぐ”というモデルを追い求めています。

(Interview6)

見えないものを見えるようにすることって非常に大事だと思っていて。それは佐渡の人たちも気づいていない価値というものが可視化される。リアルなデータに基づいて、課題の解き方というのを考えていかないといけないな、という風に

(NA5)

「みらい会議」という名称で年に1回、成果を発表する会を開催。住民の皆様と共に学び、考える場となっています。

(Interview7)

他のプロジェクトが何をやっているのかっていうのを知って、知り合った人同士が、じゃあ今度小学校を題材に、小学校でSDGsのイベントをやってみようよ、みたいな形で、また新しいプロ

プロジェクトが生まれていくみたいな成果も出てきていて。

イノベーションを生み出すための土台というか、仕組み自体もすごくいい仕組みになっているかなという風に。

(NA6)

この仕組みは“成果”として、確かな形を生み出しています。

(Interview8)

地方に行けば行くほど、NTT がやっているってことに対しての信用とか信頼って、これまさにブランド、絶対的な信用の元にやっている気がするんですよ。

(Interview9)

それぞれの地域のいろんな熱い思いを持っている NTT グループだからこそ、そういう全国の地域を盛り上げる種子みたいなものを秘めている人が、うまく立ち上がっていろんな地域が活性化していくサポート、後押しみたいなものができると、何か日本全国津々浦々、盛り上がっているんじゃないかと。

(NA7)

「自然と人が、ともに生きる。」

さまざまな人々がつながり、アイデアを重ね、サステナビリティをめぐる課題に挑む。

わたしたちの未来は、ここから広がります。